

## 大学教育再生加速プログラム(AP) 中間評価結果

整理番号	32	大学等名	関西大学
テーマ	テーマ I・II 複合型		

### 【総括評価】

B：一部で計画と同等又はそれ以上の取組もみられるものの、計画を下回る取組があり、本事業の目的を達成するには、助言等を考慮し、一層の努力が必要である。

### 【コメント】

#### <優れている点>

- ・他の教育 GP の取組を本事業で更に加速し、とりわけ LA (Learning Assistant) 制度を大きく進展させたことは評価できる。また、ラーニング Café が本事業開始時と比較し、大きく拡大していることは評価できる。
- ・「交渉学」というものに着目し、科目新設に加え、高校生を巻き込み、海外にまでその活動フィールドを拡大していることは評価できる。また、学修成果の把握に関し、ルーブリックを開発した授業実践クラスが飛躍的に向上していることも評価できる。

#### <改善を要する点>

- ・本事業の中心となるアクティブ・ラーニングについては、授業科目の割合が前年度と同レベルに留まっている点に課題を残しているため、今後、進展させる必要がある。また、学修成果の可視化についても、授業外学修時間のフォロー、学修コンシェルジュの育成、教員コミュニティの形成など、今後の取組に期待したい。
- ・AP プロジェクト委員会と各学部や部局との連携がより明確になると、本事業の更なる進展につながると考える。また、外部評価委員会の設置は評価するが、有識者に人事考課に詳しい人物のみを登用しており、更に幅広い視点からの人選を検討する必要がある。
- ・学修成果の可視化に関わる支援を行う専門人材の配置、学校法人としての評価体制の検討など、今後の課題に対するより積極的な取組が必要である。
- ・教学 IR プロジェクトの活動と本事業との関連性を明確にし、より高いレベルでの情報発信が必要である。